

令和5年度 「自己評価」

【本園の教育目標】

こころのねっこを育てる ～自らやることで学ぶ～

☆ひまわりコンセプトブック・各学年の教育課程を元に、「自ら行うことで学ぶ」直接体験・自然体験を保育の軸に、「げんき・ゆうき・えがお」が溢れる日々の保育を目指す。

【令和5年度 ひまわり重点目標】

1 ひまわり ICT 化計画

- ・ひまわりいっぱいをキッズリーで配信、インスタの活用（絵本会だよりのような）
- ・提出物を紙から電子化（Google フォームの活用）
- ・ICT 部を作る

2 目を見て元気なあいさつ・返事

- ・家庭でもあいさつ・返事の徹底の働きかけ
- ・先生たちも共通のあいさつをする

3 自主性を身につけ、主体性を育む

- ・年長になったときに主体性を発揮できるように各学年ごとの保育観の確立
- ・自主性、主体性を育むための活動内容、生活の仕方の確立
- ・常に意識し考える

4 保護者に子の様子を伝え、家庭の様子を引き出す

- ・保護者に対して、平等な関わり
- ・タイムリーなひまわりいっぱいの配信（キッズリーの活用）
- ・伝えるだけでなく、家庭での様子を引き出すような会話

【令和5年度 重点目標】〈反省〉

☆副園長、主幹教諭、各チーム担任（正規職員）でR4年度3月末に実施

① ひまわり ICT 化計画

【KEEP】

- ・おたより電子版をたくさん発行できた。（ぞう・くま・乳児）
- ・夕方居残りでの YouTube 活用
- ・好きな音楽をかけてあげられる
- ・写真整理がしやすかった
- ・情報共有しやすかった

【PLOBLEM】

- ・Wi-Fiが届かない
- ・ドキュメンテーションで写真とコメントを送る（タイムリー・コンスタントに様子を伝えること）
- ・日常のことをひまわりいっぱいなどでルクミーにあげる

② 目を見て元気なあいさつ・返事

【KEEP】

- ・あいさつを徹底できた
- ・担任の先生以外にもあいさつができるようになった
- ・子ども同士であいさつ、声の掛け合いができるようになった

【PLOBLEM】

- ・返事が「うん」→「はい」と言えるようにしたい
- ・朝のあいさつが流れ作業になっている（どの先生でも変わらない対応が必要）

③自主性を身につけ、主体性を育む

【KEEP】

- ・後半、全員が主体性をもって遊んでいた（ぞう）
- ・日常から「どうしたらいい？」と問いかけることで自分で考えた意見が言えるようになってきた。（うさぎ）
- ・指示まちがなくなり、自分たちで考え、何をしたいか言えるようになった（くま）
- ・見守って関わったり自分たちで色などを選んだり、着脱などをしたりする機会を設けたので、自分からやってみようとする姿が見られている（乳児）

【PLOBLEM】

- ・月齢が低い子は中々自分から言えない
- ・いつもと違う場所でも、危ないところやできることをみんなで考えて遊びを広げたい
- ・乳児チームとの関わりが欲しい（お世話することは主体性の始まりでは）

④ 保護者に子の様子を伝え、家庭の様子を引き出す

【KEEP】

- ・連絡帳、降園時の対応（ぞう・乳児）
- ・1人ずつ話をする機会を増やせた
- ・お母さんたちの顔も明るくなり、家での様子、相談をよくしてくれるようになった

【PLOBLEM】

- ・保護者へタイムリーにお知らせしたいことを伝えられるようにしたい
- ・連絡帳を普段書かない保護者へのアプローチ
- ・もっと些細なことでまで伝える。話せてない保護者との機会を増やす
- ・家でどのくらい会話をしているか、園での様子や自分の思いを伝えているのか。（もっと掘り下げて会話をしていく）

令和6年度に向けてのアクションプラン

☆重点目標に対する反省と、保護者アンケート「我が園の評価」を確認しながら正規職員（園長・副園長・主幹教諭・各チーム担任）で来年度のひまわり幼稚園としての重点目標を話し合い決定した。

〈子どもたちに対して〉

- ・主体性をさらに育むために、「いつもと違う〇〇」を増やすのがいいのでは。
（各学年の交流の機会を増やす、園外保育の回数、活動の部屋などに環境設定の工夫）
- ・あいさつ・返事の徹底の継続的なアプローチ
（普段の関わりが、行事等での姿につながるので、全ての先生が同じ関わりが持てるように）

〈保護者に対して〉

- ・日常の姿の発信の強化
→ルクミーのドキュメンテーションを4月から週2回は実施（毎日でもOK）
乳児は4月初旬から、幼児は始業式後から発信
[例]「給食食べたよー」「初めてお外で遊んだよー」など
- ・降園時間が遅かったり、祖父母の送迎が多い家庭に対して、タイムリーに子どもの様子などが伝わるような工夫（電子連絡帳の活用）

【その他】

- ・境界知能→クラスに14%はIQがボーダーラインの子がいる。
保護者に対しても同じ視点をもって関わり方・伝え方を工夫していく必要があるのでは。
- ・保護者を子どもと同じ感覚で捉える。（1回で伝わる家庭もあれば、何度も声掛けが必要な家庭もある）
→同じアプローチではなく、相手の心情・立場に寄り添った関わりを工夫する

【令和6年度 ひまわり重点目標】

1 新しい〇〇を増やす！～自主性を身につけ、主体性を育む～

各学年の交流の機会を増やす

園外保育の回数を増やし、「新しい場所」でどうするかという場面を増やす

毎日同じ部屋だけではなく、環境設定を工夫し、考える場面を増やす

2 目を見て元気なあいさつ・返事（個別に丁寧な対応）

返事が「うん」→「はい」と言えるようにする

普段の関わりが、行事等での自信を持ってやれる姿につながるという意識を持つ

1回でできない子には根気強く丁寧なアプローチで自信を持てるようにしていく

3 保護者・子ども一人一人を理解し、家庭との連携を図る

保護者を子どもと同じ感覚で捉える。

（1回で伝わる家庭もあれば、何度も声掛けが必要な家庭もある）

→同じアプローチではなく、相手の心情・立場に寄り添った関わりを工夫する

4 ひまわり ICT 化計画 [改] ～活用の具体化～

日常の姿の発信の強化

→ルクミーのドキュメンテーションを4月から週2回は実施（毎日でもOK）

ルクミーフォトを活用

ルクミーの機能をチャレンジしてやってみる（使ってみる）→ いい活用法を求める